《講　　評》

（財）大野城市都市施設管理公社　まどかぴあ図書館　　館長　川島　久美子
アートサポートふくおか　　代表　古賀　弥生

川島／私は県立図書館に３２年勤務後、現在はまどかぴあ図書館の館長を勤めている者なので、「とんとんぶんこ」の講評をさせていただきたいと思います。

私も現在４０歳になる息子が小学校２年生のときに、息子の学校で親子読書会を開きませんかと呼びかけ、家庭文庫を作ってから３０年以上になります。７０年代後半、福岡県内に公共図書館が少なかった頃、県内には１００を超える文庫がありました。太宰府市にもたくさん文庫があり、そこから図書館を作る運動に発展して大宰府市民図書館ができるなど、市民運動と行政と議会が一緒になって図書館を作ったという例があります。私個人の家では、８０～１００人来る子ども達に対応できなくなり、家庭文庫から校区公民館に文庫を移しました。しかし９０年代に入り県内に公共図書館がたくさんでき、文庫に子どもが来なくなってきたのを機会に、校区公民館から引き上げ、また私の自宅で家庭文庫を再開しました。またその頃から、子ども達のいるところに出かけていこうというボランティアが沢山できてきました。「とんとんぶんこ」も公民館で活動しながら、子ども達がいる学校や幼稚園などにも活動が広がっていると聞きました。現在、大野城市にも文庫が２９団体あります。大体１校区に３つぐらいの文庫がある計算になります。

「まどかぴあ図書館」にも読み聞かせボランティアが３０名以上おり、ほかにも赤ちゃん向けのお話会をするボランティアが３０名以上、布の絵本の製作ボランティアが２０名程度います。私も孫が小学校に入ったのでそれを機会に、読み聞かせボランティアとしてデビューをしました。その時に感じたことですが、学校でボランティアをしたからこそ見えるものがあります。よい本を持っていき読み聞かせをすると「とっても楽しかった。また来てね。」と言われますが、その本が学校図書館に所蔵してない場合もあります。これからは学校図書館をよくしていく運動に取り組んでいきたいと思っています。

「とんとんぶんこ」さんにも学校図書館の環境整備に目を向けてもらいたいです。

事業仕分けでの夢基金の廃止に、大きなショックと憤りを感じています。福岡市には公立図書館が足りないと思います。また、文部科学省で定めた学校図書館図書標準冊数がありますが、全国でその冊数が定めた通りに達しているのは半分以下しかありません。幸いにも大野城市の冊数は達しているので、今後は質の問題に取り組んでいこうとしています。義務教育として子ども全員が学校にいくわけなので、学校図書館の充実に目を向けて、環境整備に関心をもってもらいたいです。

今日はみなさんのいきいきとした活動ぶりがうかがえて、こちらまで癒されました。

「まどかぴあ図書館」もボランティアに多数登録してもらい、図書館の付加価値を高めてもらっています。職員が日常業務の中ではできないところの活動の充実をしてもらっていますが、受け入れ側のガイドラインがなく、作らなくてはいけないと思っていたところなので、本日のフォーラムに参加したことで沢山学ばせてもらいました。

最後に、図書館を、船でいえば帆だとすると、市民のみなさんは風だと思います。どうかいい風を吹かせて図書館が目指すものと一緒になって、目的地に船を進めてほしいと思います。

古賀／では私は先ほどの「とんとんぶんこ」以外の講評を述べたいと思います。

福岡市観光案内ボランティア協会は非常にいきいきと活動しており、素晴らしいと思いました。観光案内のボランティアは、日本観光協会が把握している数として全国で１５００ほどあります。その多くが各地の自治体や商工会議所が主導してボランティアの講習会や養成講座を行い、そこで養成された人がボランティア組織を作っているという例だと聞いています。福岡市観光案内ボランティア協会も市の主導で設立されたもので、事務所の経費等が市から支援してもらえるという恵まれた環境ですが、そこに甘んじることなく自主企画にも取り組んでいるところに感動しました。また、海外からのお客様に対し、他の団体とのコラボレーションも考えなければいけないといった、課題と解決方法をしっかりと把握しているあたりに自立した団体の姿が見えてきましたので、これからも期待していきたいと思います。

次の北九州芸術劇場の劇場文化サポーターですが、文化ホールのボランティアは今、非常に盛んになっているところで、特に９０年代中ごろに各自治体に一つ文化ホールを作るという建設ラッシュがあり、その頃にできた文化施設はボランティアの組織を持っているところが多いようです。また都心から離れた文化施設には、ホールの技術面をサポートする専門家が不足していたこともあって、音響や照明の簡単な操作に関しては地元のボランティアがしているなど、技術系のサポートをするボランティアも多かったようです。現在は指定管理者制度が導入されていて、ボランティアとしてホールを支えていた組織、団体が指定管理者となってホール全体の運営を担っていく事例がでてきているほど、ボランティアの活動が幅広く根付いているジャンルです。その中で北九州芸術劇場の劇場文化サポーターも、サポーターという名前になっている通り、ボランティアの部分と友の会のようなサポートをする組織のミックス型のような特徴をもっていると思います。サポーターだけが参加できる特別なイベントなどは、劇場との関係作りに大きく役立っていると思いますし、学びと実践ということで、しっかりと生涯学習型の社会の流れに沿い、学んだことを実践して活動につなげていく、という作り方をしているのが効果的に働いているように思いました。北九州市の中に演劇やダンスの人口がどれだけいるのかという問われ方をすると、劇場の存在意義を説明するのも難しいところです。そういう点もあり演劇の愛好者だけではなく、市民の方にもっと根付いた存在となるために、サポーターの方の活動はとても大事なものだと思います。そのことを職員さんも認識しており、よりよい関係作りを模索しているのが発表から見て取れました。これから人数も増えていく中で、ＯＢ・ＯＧや現役との関係をどう繋いでいくかという問題点がありましたが、九州国立博物館の話しにあったような、ボランティアの活動をサポートするボランティアといった存在が芸術劇場にもあったらいいのではないかと感じました。今日の発表者お２人も、恐らくサポーター業務の専任というわけではなく、他の業務との兼任をしていると思います。これからさらにサポーターとの関係を作っていくことに手を広げていくと、キャパシティーを超えてしまうのではないでしょうか。ですから、サポーターの中から、自分たちをどうサポートしていくのか、自分たちはどう活動していきたいのか、ということを考え自立した立場になって進めていける人たちが出てくるかどうかが鍵になるのかなと思います。

九州国立博物館は新しいだけに、文化施設とボランティアとの関係作りを最初からよく理解した上で制度設計をしているように思います。３００名を超える人がいるのでボラン

ティアをサポートするボランティアまで誕生したのでしょうが、いわば福岡県内の様々な文化施設のボランティアと施設の関係作りのモデル的立場になっているのではないかと思うので、今後の展開にも注目していきたいと思います。

最後に古賀市文化のまちづくりの会の取り組みですが、古賀市ではアートタウン構想が市長の強い思いによって展開されていて、文化振興条例も制定されており、人づくりや街づくりの中に文化をいかしていくということが都市計画のなかにきちんと位置づけられている自治体の例だと思います。また、加藤さんの話にあったように、岩熊さんというキーパーソンになる職員がいます。文化のまちづくりリーダー会議の発足当初にそこに集まっている方に話を伺ったことがあるのですが、どうしてこの会議に参加されたのですかと尋ねると、みなさん口を揃えて岩熊さんから電話を貰ったからということでした。熱意のある職員、ネットワーカーとでもいいますが、そういった人が中心にいることが古賀市にとって大きいと思います。今後人事異動もあると思うし、いつまでも個人の力に頼っていくわけにはいかないわけで、今後の展開が古賀市の課題ではないでしょうか。古賀市の文化に対する取り組みの中には、まちづくりの会の関わり方に濃淡があるように思います。会のメンバーが提案したものも、市の方で主導したものにお手伝いという形で関わっているのもあるようです。市が主導なのか、会が主導なのかという渾然一体とした流れで動いているのが古賀市の現状ではないでしょうか。それを整理したほうがよいのかどうかはわかりませんが、次のステップにいくためには、文化のまちづくりの会も自主的な企画提案から運営へと流れていくということが必要ではないでしょうか。その部分に注目していきたいと思います。

加藤さんの自身の挑戦を通じての変化は、午前中に話をさせてもらった人づくりに繋がる部分があるのかなと思いました。文化イベントと関わることで一人の人が変わり、そして町を変えていく動きにも関わっていくという事例を具体的にみせてもらえました。

今日は全体を通じて、型どおりではないそれぞれの人柄が見えるような発表をしてもらい、大変勉強になると同時に非常に勇気付けられるような思いがしました。こういう発表の場があることで、単なる活動報告だけではなく、課題やその解決方法など、日頃胸の中にあることをきちんと整理できるいい機会になったのではないかと思います。今後も継続してこうした機会を設けてもらえたらと思います。また今回は交流という面では、会場の外にかわら版として掲示がしてあり、それぞれの情報を持ち寄って見せ合うことができるようになっていましたが、いろんなジャンルの人が集まったので、ジャンルごとの深い交流やジャンルを超えた交流などにフォーラムが展開していければますますいいのではないかと思いました。